

生活状態調査

鮭	流網	1	1	3	6900	3	6900
發動手網		1	1,800	1	1	1	1,800
彈	岸網	1	1	3	2,800	3	2,800
彈	中流網	20	20,000	10	10,000	10	30,000
玉筋魚手網		1	100	10	3,500	11	45,500
彈	魚網	1	100	1	2,000	1	2,100
彈	魚網	5	5,000	1	300	6	5,300
彈	魚網	1	5,000	1	80	1	5,080
鮭	延縄	500	2,250	2,100	9,450	2,600	11,700
明太	延縄	50	1,500	550	1,650	600	1,800
日	延縄	1	1	1,050	3,150	1,050	3,150
雜魚	延縄	50	100	150	300	150	300
潜水	器	2	2,000	1	600	2	2,600
蝦	延縄	1	750	1	1,500	2	2,250
雜魚	一本釣	100	500	1,000	500	1,100	1,500
投	網	3	60	11	330	14	280
合	計	86	10,840	790	29,470	796	27,610

一一四

採貝 漁具 一〇 五 五〇〇 二五〇 五〇 二五五
 其 他 一 四〇〇 二〇〇 四〇 二〇〇
 而して一般に漁業者は資本乏しく、殊に朝鮮人漁業者に在りては、漁船及び漁具の購入資金を、高利を以て他より融通を受け、又は漁船・漁具を損料借りして居る者が尠くないやうである。

漁場・漁期・漁法

漁業の種類に依りて、主要漁場及び漁業の期節を異にし、漁業の方法もそれと違つて居るが、今試みに内地人と朝鮮人とに分ちて、各種漁業の出漁船數・乗組人員・漁獲高・漁業期節・主要漁場を掲げて見やう。

漁業種類	出漁船數	乗組人員	漁獲高	漁業期節	主要漁場
鮭 延縄	四一	四五	一五〇〇〇	自四月一日至八月末日	玉溪面金津里
同 大 延縄	三一	三六	三三〇〇	自四月至十一月	江東面安仁津里

二、經濟事情

一一五

蟹	刺	網	一	一	自三月至六月	江東面安仁津里
鱈	流	網	一	八〇	自五月至十月	江陵面江門津
鱈	流	網	二	八七〇〇	自五月至九月	沿岸一帯
鱈	流	網	二	一五三〇〇	自七月至十二月	同
鱈	流	網	二	一三〇〇	自七月至十二月	同
鱈	流	網	二	三二〇〇	自七月至十二月	同
鱈	流	網	二	五八五〇〇	自七月至十二月	同
鱈	流	網	二	七八八〇	自七月至十二月	同
鱈	流	網	二	七八八〇	自七月至十二月	同
鱈	流	網	二	四一三五〇	自七月至十二月	同
鱈	流	網	二	四一三五〇	自七月至十二月	同
鱈	流	網	二	二四〇〇	自七月至十二月	同
鱈	流	網	二	九五六八	自七月至十二月	同
鱈	流	網	二	七五〇〇	自七月至十二月	同
鱈	流	網	二	二二五	自七月至十二月	同
鱈	流	網	二	七六〇	自七月至十二月	同
鱈	流	網	二	三六六三	自七月至十二月	同
鱈	流	網	二	三九〇	自七月至十二月	同

投	網	一	一	自五月至十一月	江陵城德江東丁洞面
投	網	二	六〇	同	沿岸一帯
投	網	二	五四四	同	同
投	網	二	五三四七六	同	同
投	網	二	三三三	同	同
投	網	二	三八二	同	同
投	網	二	八一三	同	同
投	網	二	八一三	同	同

備考 X印は他道よりの漁獲とす

江陵郡に於ける漁場、漁期と、内地人並に朝鮮人の漁業方法は右の通りであるが、内地より同地方の鰯に通漁する者の地方別、漁船、漁業者数は次の如くなつて居る。

内地より通漁者地方別表 (昭和四年)

種別業	山口縣		福岡縣		佐賀縣		長崎縣		熊本縣		鹿児島縣		島根縣		合計
	出漁業者	出漁船隻	出漁業者	出漁船隻	出漁業者	出漁船隻	出漁業者	出漁船隻	出漁業者	出漁船隻	出漁業者	出漁船隻	出漁業者	出漁船隻	
計	七五	一六	七五	一六	七五	一六	七五	一六	七五	一六	七五	一六	七五	一六	七五
計	七五	一六	七五	一六	七五	一六	七五	一六	七五	一六	七五	一六	七五	一六	七五

養殖事業

尚ほ江陵郡内に於ては鰯・鰻・鯉等の各種の養殖事業を行つて居るが、未だその普及は充分でなく、前

途大に發展の餘地が多い。現在に於ても風光明媚なる鏡浦湖の鯉・鰻の如きは著名である。

養殖種類別面積及び收穫高表 (昭和四年)

種別	所有別	内地人		朝鮮人		合計	
		面積	收穫高	面積	收穫高	面積	收穫高
鯉	未設公有	二二三八五〇	—	—	—	二二三八五〇	—
	未設公有	二二三八五〇	—	—	—	二二三八五〇	—
鰻	未設公有	—	—	—	—	—	—
	未設公有	—	—	—	—	—	—
岩海苔	既設公有	—	—	—	—	—	—
	未設公有	—	—	—	—	—	—
合計	未設公有	二二三八五〇	—	—	—	二二三八五〇	—
	既設公有	—	—	—	—	—	—
備考	既設公有	—	—	二二六九一	—	二二六九一	—

備考 一、未設と記したるは二二三、八五〇坪の養殖面積は大正十五年九月十日附免許第一〇、一八七號魚類養殖業養殖場にして事業未着手に屬す
 二、既設に屬する養殖面積二、六九一坪は昭和二年八月免許江原第九四號養殖業養殖場なるも、養殖施設面積は約二八坪なりとす
 三、製品海苔十二貫記載分は製品にして全部改良版形なり、製品一貫目に付価格は十七圓相當

鑛業

江陵郡に於ける鑛業は殆んど見るべきものがないが、僅に鐵鑛は玉溪面の不二鑛業會社、望祥面の藤井寛太郎、江東面の三菱製鐵會社、黒鉛は江東面の金澤天、同面の杉松黒鉛製鍊所、玉溪面の山下黒鉛工業會社及び金銀鑛は玉溪面徐丙珩の各經營者がある。

鑛種	所在地	面積	許可年月日	鑛業權者	玉溪面		江東面		望祥面		玉溪面	
					面積	面積	面積	面積	面積	面積		
鐵鑛	山下黒鉛工業株式會社	二〇、九九八	明治四三三三	金澤天	二〇、一八〇	二二、八〇〇	一、二九〇	四〇	一、二二〇	—	—	
鐵鑛	藤井寛太郎	—	—	同	—	—	—	—	—	—	—	
鐵鑛	三菱製鐵株式會社	—	—	同	—	—	—	—	—	—	—	
鐵鑛	藤井寛太郎	—	—	同	—	—	—	—	—	—	—	
鐵鑛	不二鑛業株式會社	—	—	同	—	—	—	—	—	—	—	

玉溪面黒鉛採掘狀況

登録番號	所在地	鑛種	採掘高	採掘價格	一日平均採掘高	從業人夫	賃金	賣行先
四二三	玉溪面	黒鉛鑛	二〇〇	二、八〇〇	一、二九〇	四〇	一、二二〇	内地
四二三	珠樹里	黒鉛鑛	二〇〇	二、八〇〇	一、二九〇	四〇	一、二二〇	内地

備考 從業人夫は全部鮮人にして常備人夫なり。賃金は一日平均額なり。

二、經濟事情

工業

工業生産

江陵郡に於ける産業は地勢の関係上、農耕を主とし、これに亞ぐものは漁業であるが、春梁山脈を境として嶺東に位置して居るので、昔時より南部朝鮮に對して經濟上或る程度迄孤立の地位に立ち、従つて自給自足の生活が長く維持されて來た。茲に於てか、同郡内に於ては、他地方の農業村落に比すると工産品の製造が盛んであり、麻布、絹布、紬絲及び玉絲、莞草蓆、蘭蓆、改良蓆、小麥粉、麵子、胡麻油、荏油、米糖、飴、蜂蜜等の如き、農家の副業生産に屬するものが多いやうであり、殊に近來は鯧油の製造、各種酒類の製造が勃興しつゝある。試みに最近に於ける、各種工産品の生産額、製造戸數、販路等を見ると左の通りである。

工業生産表 (昭和三年)

産品	區分		製造戸數	販路	備考
	内地人	朝鮮人			
紬絲 玉絲類	二四	八五九	二二	内地人製品は内地及釜山	機械製絲以外のもの
布 (大巾物)	三、三三五	一、四〇〇	九一五	釜山、元山、郡内各市場	交織布を含む
布	二二	一、四〇〇	八	郡内各市場	交織及紡績亞麻布紡績布を含む
朝鮮紙	三、四	二、三八〇	三	郡内各市場	人絹及交織布を含む
朝鮮紙	四八五	七六	一	郡内及道内各市場	一塊は二千枚とす
扇	五九〇	一〇三	七五	郡内各市場	
其他紙製品	一一〇	一八〇	三	同	封筒、巻紙、障子紙等
其他紙製品	一一〇	一八〇	三	同	黒色、褐色の酒造及漬物用紙、水漉等
瓦	二、二八〇	五、三三〇	三	同	
金銀器	一、三五	一、二五七	二	郡内各市場及平昌郡、旌善郡	頭髪具、裝身具、美術裝飾品、香牌等
眞鍮器	四九七〇	五、七三〇	六	郡内各市場、平昌、旌善、三陟各郡	飲食器洗面器火鉢等
鐵器	六四	三、一七〇	六	郡内各市場、襄陽、三陟、平昌、旌善各郡	ストーブ、踏車、建築金具、家具、金物等
雜金屬製品	七、五九〇	二、五八〇	一八	郡内各市場、平昌、旌善、三陟各郡	鎌、肉刀、包丁、鋤鋤等
硯	三五八五	一、四七〇	二	郡内各市場、平昌、旌善各郡	
硯	二七	五七〇	三	郡内各市場	

二、經濟事情

生活状態調査

冠、岩巾、網巾	笠	毛織	繩	改	改	芦	蔴	莞	萩	祀	竹	其他木製品	朝鮮木製品	下駄	建具家具類
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	朝鮮人	内地人	朝鮮人	内地人	内地人
五七八	二九八〇	二二〇〇	二〇〇〇	二二〇〇	三三六一	二五七	二五七	二五七	二五七	二五七	五五	八七〇	三三九	二七〇〇	一八五七
八六七	二二四〇	二二〇〇	二二七五	四三六五	三三六〇	二〇五	二五七	二五七	二五七	二五七	八四	二九〇〇	九八	二五〇〇	二七六五
七	一〇	四	五〇	二〇〇	二六七〇	一五七	八六〇五	六三九六	五三	一〇	六	五	五	一	四
同	同	同	同	同	同	同	郡内各市場	郡内各市場及元山	同	同	郡内各市場	郡内、平昌、旌善	郡内各市場	郡内各市場及平昌、旌善郡	郡内各市場

籠、バスケット、広籠、行李、箆等

蔴座、蔴表、蔴草蔴、光輝蔴、富貴蔴等

二、經濟事情

濃	蕎	小	麴	酢	酒	燒	清	船	車	漁	養	農	草履、草鞋、麻鞋	産
支那人	同	同	同	同	同	朝鮮人	内地人	内地人	内地人	朝鮮人	内地人	同	同	同
五七五〇	一三八五〇	三七八六〇	五八六五〇	一〇、四三三	二二〇	九八	一七七	八五	二七	二〇五〇	三、八二〇	一、八五〇	一五三〇〇	一三〇一九
六二二五	六、九二五	三七、八六〇	一七、五五〇	二六、二二四	一四、七〇〇	七、八四〇	一六、〇〇〇	八、五〇〇	五、四〇〇	二、〇〇〇	四一〇	二、七七五	三、〇六〇	一、六〇三
九七三	五七八	五七、六〇	一七、六四	一八二	四	二	一	五七	一九	一	三三	八七九	七、七三	一六八
同	同	郡内各市場	郡内各市場	自家用			郡内各市場、旌善、平昌	郡内各津港	郡内各市場	郡内各津港	同	同	同	同

犁、鋤、鍬、ホーク等
主として耕作用具
置箱、置網、置架、箆等
釣竿、釣針、浮釣絲等

機械製に非ざる小規
模生産の小麥粉

生活状態調査

干	餅類	朝鮮人	五六七	四五〇	七
凍	豆腐	同	三七九	七五八	一七
餛	同	同	一七八九	二五七	三〇〇
菜	子類	内地人	二二七〇	七一〇	三
		朝鮮人	一八九〇	三七八〇	〇
蜂	蜜	朝鮮人	二五〇	一二五〇	二五九
糖	蜜	同	二七	四	三四
魚	類	同	三三	一五六〇	一
貝	類	同	三三〇	二二六〇	一
製	革	同	一〇八〇	一〇六〇〇	〇
靴	類	同	二五〇	二二二五	三
牛	豚	同	一五〇	九五	九
魚	油	内地人	七八三	一五六六	一
		朝鮮人	二九七	五九四	一
蜜	蠟	朝鮮人	七五	三〇〇	三〇
荏	油	同	二五	六五〇〇	一
苳	油	同	三	二、二〇〇	二、八六七
苳	油	同	二	二四〇	五三〇

一二六

鹽、蕎麥等の干麩及び豆類等

麥芽製に限る

皮鞋のみ

手工業

大豆胡麻荳等の油類	同	一六九三	五七三	四
魚油	同	三〇、一八七	九八七六	一五
大豆油	同	一五	七五	三
米	同	一〇、三〇〇	九三	二、八九七

この地方に於ける手工業は、多くは農家の副業品か、然らざれば小規模の家内業に属するもので、大規模の製造工場はないが、少多地方的色彩に富んで居るものがある。今主要なる手工生産の数量、従事戸數、工法等を表出して説明に代へやう。

各種手工生産状況 (昭和四年)

種類	数量	価額	従事戸數	工法	其	他
陶磁器	三、八六五	七、七三〇	一九	粘土を以て型を作り其上に藥を塗り之を焼きたるもの		
素焼物	五、七八〇	二、八九〇	一五	陶器の藥を塗りたるもの		
瓦	八、〇〇〇	二五六	一	粘土を以て型を作り焼きたるもの		
金銀細工	八一四	四、四一八	八	金銀の原料を以て各種器物及裝飾物を作るもの		
朝鮮煙管	五、七〇〇	八〇四	一三	真鍮を叩き伸ばして作りたる煙管		
指物	九二〇	六、〇九〇	二五	材木を以て作りたる各種の器具		

二、經濟事情

一二七

生活状態調査

品名	数量	備考
下駄	八七五	八七五
竹製品	五三四	二六七
笠	五、九八〇	二、九九〇
冠、宍巾、網巾	三、一二〇	三、一二〇
洋服	四二五	八、五〇〇
洋靴	二二〇	二、一〇〇
煉瓦	七四、〇〇〇	二、〇六一
瓦物	五、八〇〇	二、六四〇
箕	一、四〇〇	八二〇
筆	二、三〇〇	二三〇
計	一一九、七二三	四五、七九一

製造工場

この地方に於ける工産品は農家の副業品又は小規模の手工生産に係るもの多く、工場工業としては未だ見るべきものが少ないが、昭和三年末現在の各工場に就き、創業年月、工場建坪、資本金、従事者数、操業日数、生産額、原動力、燃料等を示して見やう。

工場表 (昭和三年)

会社名	位置	工場主	創業年月	工場建坪数	資本金	従業者数		生産種類	生産数量	生産品	原動力種類	原動力数量	燃料種類	燃料数量	備考
						男	女								
江陵製紙株式会社	江陵町	柳錦泰	昭和二年四月	五〇	十、〇〇〇	三	一	洋紙、和紙、印刷物	二、〇三三	洋紙、和紙、印刷物	—	—	—	—	同踏機一六頁一臺
江陵製紙株式会社	大正町	堀野一	昭和二年八月	三〇	一〇、〇〇〇	一	一	生絲	二、一三〇	—	—	—	—	—	同踏機一六頁一臺
江陵製紙株式会社	同	劉明順	大正八年八月	八	一、一〇〇	三	一	支米	四〇〇	精米機	—	—	—	—	同踏機一六頁一臺
東昌精米所	江陵町	崔允泰	大正八年八月	三〇	一、一〇〇	三	一	支米	四〇〇	精米機	—	—	—	—	同踏機一六頁一臺
吉田精米所	江陵町	吉田由松	同上	四	一、〇〇〇	三	一	支米	四〇〇	精米機	—	—	—	—	同踏機一六頁一臺
東洋製糖株式会社	同上	金永河	昭和三年六月	二〇	一、〇〇〇	八	一	濁酒	一、〇〇〇	蒸發機	—	—	—	—	同踏機一六頁一臺

内 鮮 人 勞 銀 (昭和四年)

職 業 別	男女別	内地人	朝鮮人
大 工 (家作) (日給)	男	三・五〇	二・五〇
左 官 (日給)	男	三・五〇	二・五〇
農 作 夫 (年給)	男	一五〇・〇〇	一〇〇・〇〇
同 (日給)	男	一・五〇	・八〇
同 (日給)	女	・八〇	・五〇
下 (年給)	男	五〇・〇〇	三五・〇〇
下 (年給)	女	五〇・〇〇	三〇・〇〇

備考 勞銀は大工、左官の如きは日給、下男、下女、農作夫の如きは年給として計算したるものなり。

商 業 業 業

商 業 戸 數

江陵郡に於ける市街地としては、邑内の外には僅に注文津港があるのみで、従つて常設店舗の商業取引は盛んでなく、商品は交通の關係上、釜山と元山の兩方面より多く移入され、商圈はこの兩地に屬して居る。一部の商品は京城より自動車にて移入さるゝものもあるが、冬期は大關嶺附近が積雪の爲め交通杜絶

し、従つてこの方面との直接取引は行はれない。而して市街地に於ける商店も、内鮮人共に概して小規模のもので、巨額の取引を有する大商店は殆んど見るを得ない状態にある。今各種商業の種類別従事戸數、及びその賣上高を見ると左の通りである。

商業の種類と従事戸數 (昭和四年)

商業の種類	従事戸數	一箇年賣上高	商業の種類	従事戸數	一箇年賣上高
物品販賣業	二一八	二、六二三、〇二〇 ^円	金錢貸付業	二一	三七、〇七二 ^円
製 造 業	六四	五二三、二〇八	運 送 業	三	八四、一〇〇
印 刷 業	一	二、一〇〇	寫 真 業	一	二、二〇〇
電氣供給業	一	一七、五〇〇	請 求 業	七	一二六、六〇〇
料理店業	九	四四、五八〇	旅 人 宿 業	七	一八、九〇〇
代 理 業	二	九七九	問 屋 業	一	五七〇
運送取扱業	八	一五、五二七	倉 庫 業	五	五六四
計	三四三	三、五〇六、九二〇			

尙ほ郡内の煙草小賣店數及びその賣上高は左の通りで、一店當り平均約六百圓の賣上げあり、賣上金額の最も大なるものは、ビジョン、蠟燭、メープルの三種である。

二、經濟事情

煙草小賣店数及び一店當賣上高

區別	年 度 別		
	昭和二年度	昭和三年度	昭和四年度
小賣店舖数	二四〇	二二八	二七二
一店當最高賣上額	二、七〇〇 _円	三、七〇〇 _円	四、八〇〇 _円
同 最低賣上額	三〇	六〇	七〇
同 賣上平均額	四二七	五八一	六〇八

備

考

四年度は上半期六箇月分の倍額を見積れり

品種別、煙草賣上高

品名	年 度 別		
	昭和二年度	昭和三年度	昭和四年度
歌 鳥	二、八三二 _円	三、二七八 _円	三、三四八 _円
朝 日	七、四九五	八、九九〇	九、五二一
松 風	四九九	一、〇〇六	一、〇八二
コ ン	一	一	二〇
カ イ	七四五	六七五	七四五
ビ ジ	一六、〇一一	三一、三七九	三八、九一八
メ ー	二、一三一	一五、七七〇	二〇、三七七
メ ー	四一、〇〇六	二八、五九八	三二、二七八

一、年度は自四月至翌年三月迄とす

二、四年度は上半期六ヶ月分の倍額とす

計	一〇二、四〇九	一三二、三六二	一六五、四八六
移 入	二五六	三九九	一五〇
移 出	一	一	一
計	一〇二、四〇九	一三二、三六二	一六五、四八六

地 方 行 商

市街の發達せず、交通の不便なる關係上、市場から市場へ、村落から村落へ、行商を爲す商人は相當に多いが、外來行商者は、隣接の旌善・平昌・襄陽・三陟郡内より來るもの最も多く、また地元行商者の行商先は、平昌・三陟・襄陽郡等の諸地方に及んで居る。

外來行商者の出身地方別數

元 山 府	七人
釜 山 府	五人

二、經濟事情

倉庫としては設備不完全なるものにして、在庫貨物の種類は米、大豆、粟、麵子、反物、ビール、鹽、漁獲物、肥料、吹等の如きものである。

物 價

江陵郡は海陸共に、交通の便悪しき爲め、物價は京城・釜山・元山地方に比して、移入品は二三割内外高價なるを常とし、殊に冬期に於ては物資拂底し、物價の暴騰を見ることが珍らしくない。

卸 賣 物 價 表 (昭和四年中)

品 名	稀 單 呼 位	價 格		
		上	中	下
粗 米	石	一一・〇五	一〇・七五	一〇・四五
精 米	同	二四・〇〇	二三・五〇	二三・〇〇
玄 米	同	二四・五〇	二三・七〇	二三・二〇
大 麥	同	一〇・〇〇	九・七〇	九・四〇
小 麥	同	一四・四〇	一四・〇〇	一三・六〇
大 豆	同	一四・五〇	一三・七〇	一三・〇〇
小 豆	同	一九・〇〇	一八・五〇	一八・〇〇
粟	同	一八・〇〇	一七・五〇	一七・〇〇

春 蠶 繭	貫	六・九六	五・二二	三・五〇
白 柿	(1000)入接	四・三〇	二・八〇	一・八〇
中 柿	(1000)入同	一・二六	・九六	・六六
牛 (五歳一頭)	頭	一〇〇・〇〇	八〇・〇〇	六〇・〇〇
改 良 豚	同	二五・〇〇	一五・〇〇	一〇・〇〇
在 來 豚	同	七・〇〇	五・〇〇	三・〇〇
改 良 鶏	羽	一・二〇	・七〇	・三五
在 來 鶏	同	・六〇	・五〇	・三五
砂 糖	斤	・三〇	・二八	・二六
食 鹽	(100)俵	二・五〇	二・四〇	二・二〇
石 油	(100)俵	三・八五	三・七五	三・六五
燐 寸	(100)箱	七・八〇	七・八〇	七・八〇
木 炭	(100)俵	一・二〇	一・〇〇	・八〇
薪 木	(150)負	・八〇	・六五	・五〇

會 社 事 業

商工業地にあらざる關係上、未だ會社事業の發達は幼稚であるが、將來東海岸線の鐵道敷設せらる、曉

國 稅

地 稅 近時土地の利用方法著しく發達し、これが爲め土地の異動が逐年増加する趨勢に鑑み、土地及び納稅義務者異動獎勵規程を定め、これに基き百十六名の異動地調査員を各面に涉り指定し、異動地の査出と申告、申請の獎勵に努めてゐる。

次に昭和四年度に於て完成せる江陵面に於ける地價改正事務は、昭和二、三年度に準備調査、補正調査を行ひ、更に昭和四年度に於て各地番毎に實地を再査し、根本的に精密なる調査を遂げ、漸くにして決定を見、本年一月二十五日より二月二十三日迄改正地價を一般に縦覽せしめた。

地價改正の顛末

地 番 數	一、七九〇 ^年	地 積	三六、六八三、六
舊 地 價	四〇、三七五 ^円	稅 額	六八六、三〇
改正地價	五四、一六四	同	九二〇、七〇
課稅標準地價	四九、四六二	同	八四〇、七八
增加割合			

改正地價に依るもの 三割四歩
 課稅標準地價に依るもの 二割二歩

土 地 (民有課稅地)(昭和四年末現在)

地 目	地 積	地 價	筆 數	稅 額	納稅人員
田	一九〇、七八、一七 ^年	四八、二〇、二九 ^円	三九、三三		
畑	二〇、九五、九三〇	一、七三、二七 ^円	三〇、五〇七		
公 池	一、五四、一〇、四〇	一四六、四七 ^円	〇、六五五		
沼	四、二七〇	二二	一六		
雜種地	五六、五四七 ^三	二、九八〇	一九六		
計	四一、六、三四、四五 ^四	二、三六、三、六四 ^七	八〇、五八五	四〇、一八、九九 ^〇	一八、六五五

非課稅地、免稅地、及び荒地等は次表の通りである。
 民有非課稅地及び國有地

種 別	面 積	筆 數
民有非課稅地	八四二、一八、一五 ^歩	三、五〇七
國 有 地	九八三、六七、一六	三、五八三
計	一、八二五、八六、〇一	七、〇九〇

二、經濟事情

生活状態調査

一四六

林野家帳登録地	民有非課税地	二四、七四〇、七三、二三	一六、三五四
国有地	六〇、八七九、八六、一一	六、四四九	
計	八五、六二〇、六〇、〇四	二二、八〇三	
合	八七、四四六、四六、〇五	二九、八九三	

免税地「公共用地」

種別	面積	地価	筆数	税額
面の用に供するもの	一、九〇〇、〇六	七六〇、二二	二一	一二、九二
學校組合の用に供するもの	八八、〇七	四六六、五〇	一六	七、九三
學校費の用に供するもの	一〇、六五、一九	三、九五一、六四	五一	六七、一七
道地方費の用に供するもの	六、九四、二七	二、八五三、五五	一六	四八、五一
計	二〇、三八、二九	八、〇三一、九〇	一〇四	一三六、五三

免税地「荒地年期地」

種別	面積	地価	筆数	税額
雑種地	四一、一八、二四	一、九六八、一〇	二四五	三三、四五
雑種地	四八、八〇、二〇	六、四二九、四二	三三二	一〇九、二九
雑種地	四八、二五	一〇六、六五	一〇	一、八一
雑種地	三、九三、一七	五三一、八八	二二	九、〇二

計

九四、四一、二六

九、〇三六、〇五〇

六〇九

一五三、五七〇

所得税

賦課すべき法人數十一、此の資本金額五十萬四千圓にして、江陵酒造株式会社資本金十萬圓（拂込済五萬圓）及び江陵電氣株式会社資本金十萬圓（拂込済二萬五千圓）は良好なる事業の成績を擧げ、次に太平洋醸造株式会社資本金十二萬圓（拂込済額三萬圓）等主なる法人である。

法人

調（昭和五年一月一日現在）

法人別	所在地	資本金額	事業の大要	設立年月日
江陵商事株式会社	江陵町	二五、〇〇〇	自動車運輸	大正十三年四月廿五日
江陵運輸株式会社	同	三〇、〇〇〇	海陸運輸取扱	大正十四年五月廿三日
朝鮮殖産合資会社	同	五、〇〇〇	植林及金融	大正十四年四月
丸江合資会社	同	八、〇〇〇	乗合自動車運輸	大正十五年八月十四日
東海自動車運輸株式会社	同	六六、〇〇〇	自動車運輸	大正十五年九月一日
太平洋醸造株式会社	旭町	一二〇、〇〇〇	酒類製造販賣	昭和四年十二月卅一日
朝鮮特産物合資会社	本町	三五、〇〇〇	支那向軍材其他物産輸移出	昭和三年八月六日
合資会社金玉堂	林町	五、〇〇〇	寫眞印刷	昭和三年九月一日
江陵電氣株式会社	同	一〇〇、〇〇〇	電燈電力供給	昭和二年十一月廿八日
江陵酒造株式会社	大和町	一〇〇、〇〇〇	清酒醸造及販賣	昭和三年十月一日

二、經濟事情

一四七